

## (6) 利岡小学校

学 校 長 佐竹 正史  
校内研究代表者 市原 百梨佳

### 1. 研究主題

「言語活動を高め、心豊かな児童を育てる」  
～主体的な深い学びを育てる授業づくり～

### 2. 主題設定の理由

本校では、児童数の減少により、平成 29 年度までは 3・4 年だけの一部複式であったが、昨年度は 2・3 年と 5・6 年の 2 学級が複式となり、今年度から完全複式となった。児童の学力の定着状況として、平成 30 年度の全国学力学習状況調査においては、国語、算数、理科すべての問題において全国平均を上回り、理科以外は 5 ポイント以上高くなっていて、比較的学力がついている状況にある。一方 4 月に行った 3 年生以上の標準学力状況調査でも、全国平均より国語も算数も高い結果が得られ、3 年の国語以外は 10 ポイント以上の結果を出している。昨年これらの結果を踏まえ校内研修では、各学年の課題を更に明確にし、授業改善や教員の研修、指導方法の工夫、思考力・判断力・表現力に重点を置いた問題に取り組んで来た。1 月に行った高知県学力学習状況調査結果ではすべての教科で県平均より高い結果を昨年に引き続いて残すことができ、これまでの取り組みの成果が現れてきていると言える。今後も取り組みに改善を加えながら、分析を明確にし、取り組んでいく必要がある。

これまでの学力学習状況調査等の結果から「自分の考えをまとめる力が弱い」「使える語彙が少ない」という課題が見えたことにより、昨年度から国語科における言語活動を高める授業づくりの研究を行ってきた。更に今年度は、国語科において根拠を明確にした自分の考えをまとめたり、発表したりすることを重点とした活動を通して児童の言語活動を高めていきたい。そして「説明できる力」「文章をわかりやすくまとめる力」を養っていき、それを他の教科にも広げ、つなげていきたいと考える。

複式学級の指導については、これまでに単式学級においても「学習リーダーを中心にした学習」を取り入れ、今年度の完全複式への対応を行ってきた。複式の学習規律の指導や授業づくりを進めることで児童自ら行動し自分たちで進めようとする意欲が見られるようになってきたとは言え、授業展開や指導方法に困難さを感じたり、基礎学力の定着にも個人差、学年差が出てきたりする傾向もある。「学習リーダーを中心にした学習」を取り入れ、主体的に深く学ぶ態度を更に定着し身につけさせたい。また、「一人学び」や「とも学び」、「まとめ」「振り返り」までを授業の中に取り入れ、言語活動を活発に行う複式授業の研究・推進を全校的に充実させ、全児童の学力向上を目指したい。

### 3. 研究の進め方と方法

○企画 ― 計画立案（校長、教頭、研究主任）

○研修の進め方〈毎週水曜日 15：00～〉

第 1 週・・・校内研修	第 2 週・・・職員会
第 3 週・・・校内研修	第 4 週・・・校内研修

### 4. 研究内容

(1) 研究テーマに関して

①主体的な深い学びを支える学習指導の進め方

○研究授業を通じた授業提案

- 視点 1. 学習リーダーを中心とした主体的な学習活動
2. 一人学びやとも学びを育成する授業展開の工夫
3. 言語能力の育成

- 基本的な学習規律の確立
- 教材研究と学習内容・指導の重点化
- 教具、ICTの活用、
- ノート、ワークシートの充実
- ②基礎学力の定着に向けた取り組み
  - 複式授業のスタンダードの推進（5つのポイント）
  - 学習リーダーの育成（学習メニューの提示、学習活動の進行）
  - 加力学習の充実
    - ・学級朝会（8：20～8：30）  
新出漢字の学習。反復練習により漢字の習熟を図る。
    - ・利岡タイム（13：40～13：55）  
月・火曜日は国語、水・木曜日は算数の共通問題集に取り組む。
    - ・ぐんぐんタイムの実施（委員会・クラブのない金曜7校時、4年生以上）  
他学級担任も協力し、基礎的問題の徹底や学力テストに対応できる問題の習熟を図る。
  - 学習の手引きの活用・実施を行う。（ひとり学び、とも学び、まとめ、振り返り）
  - 新聞を活用した学習（新聞投稿への取り組み）
  - 見やすいノートづくりの指導
  - 国語課題克服指導資料集、国語シート、算数シート、算数フォローアップの活用
  - 国語科を中心に「書く」作業の活動を取り入れ、自分の考え等をまとめる力、伝える力をつける。字数を制限したまとめ方の指導にも取り組む。
  - 朗読発表朝会（水曜）は、各学級がめあてをもった音読による表現活動を行う。発表を聞いた後、その内容に関する感想をまとめ発表させる。
  - 朝会（週目標の反省や児童会、委員会等の発表）などの発表の場で、はっきりとした声でしっかり伝わるような話し方をできるように指導する。
  - 標準学力診断テストの結果・全国学力・学習状況調査の分析、高知県学力定着状況調査をし、学力の習熟度や学級の傾向の把握、及び課題のある領域への指導方法の工夫と改善を行う。
  - 家庭学習の習慣化
    - ・家庭学習の手引きを参考に家庭学習（自主学习）の方法の指導と学習課題（算数は領域別に児童の苦手問題、国語はことばのきまりや文法）の指定
    - ・毎月第2木曜日に全学年で自主学习ノートの交流をし、自主学习の意欲を高める。
- ③読書指導
  - 朝読書の習慣化、教科での図書室利用の工夫や読書カードの活用
  - 「きっとあるキミの心にひびく本」の読書量を増やす。（朝読書の時間）
  - 図書委員会による図書室の本の読書総数調べ、利岡小ブックフェスの取り組み
  - わかたけお話し会や中学生による読み聞かせ（主体的な聞き方の指導）
- (2) 授業研究について
  - 講師招聘による研修（国語科）
  - 授業後の反省ではKJ法による振り返りを行う。
  - 授業における一人学びやとも学びの場の設定や発問の工夫、めあてやまとめの提示など授業展開について話し合う。
  - 授業実践交流（見てみて週間）や他校の研究授業への参観等

### (3) 児童理解について

#### ①なかまづくり

- 挨拶運動（児童会、全校児童：縦割り班での活動）
- QUテスト実施と分析（年に2回実施・分析結果を踏まえ指導）
- 縦割り班を活用した取り組み（清掃活動、全校レク、春の遠足での活動、アルバム作り等）
- 児童や学級の変容を継続的に追った実態報告の場と時間を確保し共通理解をもつ。
- なかよし給食（毎月1回、全校がランチルームに集まり、学年関係なく給食を食べる。）

#### ②健康、体力づくり

- 朝運動（8:05～8:10…マラソン、縄跳び、遊具や一輪車を使った運動）
- 生活がんばりカード、週4回5分間の歯磨きブラッシング指導
- 保健朝会（保健委員会による健康に関する劇などを行い、健康への意識を高める。）

#### ③体験活動の充実

- キャリア教育の視点を踏まえた土曜授業や体験活動の実施
  - ・児童が主体的に学び、身に付けることのできる行事…山の学習、生活講演会
  - ・中学生の姿を見て、学び、身に付けることのできる行事…クリーン作戦、防災学習等
  - ・地域の人々から学ぶ行事…山の学習、田植え・稲刈り、地域の祭りへの参加等

### (4) その他

- 地域との連携・協働（学校地域支援事業・・・習字、絵手紙、ダンス、音楽指導など）

## 5. 今年度の成果（○）と課題（●）

- 学習の流れをメニューボードに書き、パターン化することで、学習リーダーを中心に学習を進めることができた。
- 学級朝会の時間に新出漢字の学習や反復練習を進め、習熟を図ることができた。
- 国語科では、文章内容や自分の考えをまとめるなど「書く」活動を適宜取り入れることで時間内に書き上げる力がついてきている。
- 自主学習の内容は、苦手な問題に取り組むなど質が上がり、ていねいに書くことができています。
- 指導案検討での講師招聘はできなかったが、学習指導要領についての学習で他校の実践を聴かせて頂くなど研修を深めることができた。
- 会の中での報告だけでなく日常的に教職員が気になる児童を共有できており、時間を置くことなく指導に生かすことができています。
- 地域の方々の協力もあり、いろいろな体験活動に取り組むことができ、キャリア教育の視点からも学びの場となっている。
- 学習リーダーを中心に学習を進めることはできているが、主体的な学習や、学びを深めるまでには至っていない。
- メニューボードや板書の仕方、ノート書き方等、統一したものになるようしっかりと共通理解を図っておく。
- お互いの授業を見合う「見てみて週間」は、うまく回っていなかった。いつ、だれが、どの授業を観るのか前もっての調整が必要。
- 体験活動での交流はあるが、学習や休み時間等、学級単位での行動が多く、全校で交わることが少なく感じられた。
- 体験活動は、教師が主に内容を決めているが、児童会が中心となって活動を考え計画し実行していくということがあるといいのではないか。またそのようなことができる児童に育てたい。
- 体験活動が、単なる体験だけで終わることのないように、事前・事後指導にはしっかりと取り組まなければならない。